

## 平成 25 年度第 3 回 長野市廃棄物減量等推進審議会 議事録【要旨】

### 【開催概要】

開催日時：平成 26 年 3 月 17 日（月）14 時 00 分～16 時 30 分

開催場所：長野市職員会館 3 階 会議室

### 【次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 環境部長あいさつ
- 4 前回の議事録確認
- 5 議 事
  - (1) 広域ごみ処理施設計画の概要について（報告）
  - (2) 平成 25 年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施状況について
  - (3) 平成 26 年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施計画（案）について
- 6 その他
- 7 閉 会

### 【会議資料】

- ・平成 25 年度第 2 回長野市廃棄物減量等推進審議会議事録（要旨）
- ・資料 1 広域ごみ処理施設計画の概要について
- ・資料 2 平成 25 年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施状況について
- ・資料 3 平成 26 年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施計画（案）
  
- ・参考資料 1 中核市との比較（一人一日あたり排出量・リサイクル率）
- ・参考資料 1－1 中核市との比較（各項目一人一日あたり排出量算出）
- ・参考資料 2 平成 25 年度まちづくりアンケート概要版（抜粋）
- ・参考資料 3 将来ごみ総量（推計値）
- ・参考資料 4 ごみ処理実施計画 年度別重点項目
- ・ゴミ通信 6 号

【出席委員】 12 名

【欠席委員】 3 名

【事務局】 14 名

【報道・傍聴者】 0 名

### 【会議内容(要旨)】

#### 1 開 会

◇会議の成立と公開について報告（事務局）

#### 2 会長あいさつ

年度末でお忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。

本日は、広域ごみ処理施設計画の概要、また、ごみ処理計画について、平成 25 年度実施状況及び平成 26 年度実施計画(案)の審議を行う予定である。審議がスムーズに進むよう、願います。

### 3 環境部長あいさつ

年度末の大変お忙しい中、ご出席いただき感謝申し上げます。

1月に開催した審議の中で、ごみ処理及びし尿処理の概要を説明したが、本日から具体的な審議をするが、よろしくお願いいたします。

今後の審議に備え、長野広域で計画している新焼却施設について、事務局より説明を申し上げます。

長野市一般廃棄物処理基本計画に基づき、長野市一般廃棄物処理実施計画を定め、目標達成のために具体的施策を実施・展開している。平成25年度実施状況について、評価結果を報告させていただく。また、平成26年度実施計画（案）についても説明申し上げ、ご審議をお願いする。

今回もボリュームがあるが、よろしくお願いいたします。（環境部長）

### 4 前回の議事録確認

◇平成25年度第2回審議会の議事録（要旨）の差し替えをお願いし確認が行われ、修正箇所なしで承認された。

### 5 議事

#### （1）広域ごみ処理施設計画の概要について（報告）

◇資料1「広域ごみ処理施設計画の概要について」により説明（事務局）

#### （2）平成25年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施状況について

◇資料2「平成25年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施状況について」及び参考資料1～3により説明（事務局）

<以下、質疑応答>

（委員） 資料2の11頁、3.1.2 高齢者等に対する収集体制の検討について、高齢者からごみ出しに苦労しているという話を聞いた。そこで、ごみステーションの設置基準についてお尋ねする。基準によって増やすのか、状況によって統合する等、どのように対応しているのか。

（事務局） ごみステーションの設置については、地区に設置・管理をお願いしている。宅地開発では、概ね30戸に対して1箇所設置する基準は設けている。地区で管理しているため、10戸で1箇所設置している地区もあれば、40～50戸で1箇所しかない地区もある。基準は設けているが、地区の実情に応じて設置してほしい。

（事務局） 全国的にみると「ふれあい収集」という事業がある。行政あるいは委託事業者が直接自宅までごみを収集する事業であるが、かなり推進されている。事業について、料金徴収の有無は自治体によって異なる。

市内、特に中山間地において、大雪が降った等を想定した場合、該当者が大勢いるため、検討に入っている。直接自宅まで伺うため、ごみ収集だけではなく、声掛けによる健康確認や情報提供等、福祉施策も含めた中で検討に着手する段階である。

（副会長） 参考資料1-1について、下関市は、事業系のごみが直接搬入量に全てカウント

されているが、長野市は、直接搬入量の中に事業系のごみが含まれていないのか。

(事務局) 長野市の場合、直接搬入量は主に事業系のごみと位置付けているが、全て事業系のごみではない。

今回示させていただいたのは、国で示された方法によって記載しているが、事業系のごみは、市で許可した収集業者に委託して収集してくるもの、直接搬入するものである。許可事業者が搬入したごみは、収集量に計上してある。直接搬入量は、事業者や市民が直接搬入したごみを計上している。

(委員) 公民館等で行なうイベントごみは、家庭ごみと同様に分別し、指定袋で排出して良いのか。また、公共用のごみ袋を使用して排出して良いのか。

カラスの害を防止するネットは、地区で購入するのか。市で用意してくれるのか。

(事務局) 公民館活動も一つの事業活動であるため、家庭用のごみ袋を使用せず、自らが分別して収集業者に依頼するか、直接清掃センターへ搬入することを基本としている。指定袋を使用しているという事例も聞いているが、事業活動であるため、本来は良くない。実態について、現段階で調査・対応まで行っていない。また、公共用のごみ袋は、集積所に排出された分別不良等のごみを排出するため、また、地区清掃時に使用するものである。そのため、本来の趣旨に反している。

カラスよけネットについては、地区で購入していただく。市で補助金を出しており、購入費の2分の1で、上限が3千円である。

### (3) 平成 26 年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施計画 (案) について

◇資料 3 「平成 26 年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施計画 (案)」及び参考資料 4 により説明 (事務局)

<以下、質疑応答>

(副会長) マイバッグ持参率について、有料化店舗だと 8 割、無料店舗だと持参率が低いという結果だが、レジ袋有料化を促進する働き掛けを行なう予定はあるのか。

(事務局) 県とスクラム運動を行い、その方針に沿って行なっている。協力の意向を示している小売店が増えてきている一方、意見交換を行なう中では、一斉に有料化を行なえば良いが、なかなか有料化に踏み込めない小売店もある。消費税の改定もあり、二の足を踏んでいる小売店もある。強制的に行なうことは望ましくなく、ムードとして有料化の動きになることが望ましい。有料化にすることによりマイバッグ持参率が非常に高くなることは目に見えているため、結果を示しながら協力をいただけるよう進めたい。

(委員) 参考資料 3 について、平成 22 年度から平成 52 年度まで、10 年毎のごみ総量と人口の推計値を示していただいたが、具体的に一人あたりどのくらい減量する考えで算出したか、教えていただきたい。

(事務局) 前のごみ処理基本計画では、有料化によって当初計画したよりもごみ量が減り、計画を見直した経過がある。来年度は人口減少による予測値に、更にごみ量を減らすための施策を、どのように進めていくか議論していただく。予測値と目標値は違うという考えである。

(事務局) ①収集量は、平成 24 年度実績値に各年度の推計人口を掛けている。色々な施策を通じて一人あたりのごみ量を減らしていくが、平成 24 年度実績値を基に人口減少の影響のみを見据えて算出してある。

②直接搬入量は、人口減少の影響を大きく受けないと判断し、平成 24 年度実績を

そのまま使用している。

③集団資源回収量は、回収量が減少傾向にあるため、それを踏まえて人口減少を加味して算出した。

ごみ処理基本計画に基づく施策によって減量する分を反映できれば良いが、参考資料3は施策による減量分は含まれていない。平成24年度実績値を基に、人口減少だけを反映したものです。

(委員) 有料化で減少し、平成24年度は微増して落ち着いているところだが、更なる減量となると、手数料を値上げする等、大きな施策を考えなくてはいけない。参考資料3は推計値ということで、安心した。

(委員) ごみが減ったところで0(ゼロ)にはならない。ごみ減量化をどこまでやるか不明確である。中核市で一番少ない市でも823g/人・日であり、どうやってもごみ減量化の目標設定をしていくか難しい。平成26年度計画(案)を見ても、平成25年度計画と大して変わらない。新しくごみ処理施設が新設されることも含め、ごみをどうやってエネルギー転換していくか。高齢者問題と絡めて他の課と協力しながら、ごみを有効に活用していくことも必要である。サンマリーンに代わる新しい施設も、もっとエネルギーを使用し、高齢者から子供まで楽しめる施設にしないといけない。

ごみを少なくすることを一つの目標にするのではなく、どうしても出てしまうものであれば、出たごみを有効に活用しながら、更に他のこととも連携して計画を考えなくてはいけない。新しいごみ処理施設が出来ることが一つのアクション、またはチャンスになり、長野市の取り組みが注目されるようになってほしい。

(事務局) 新しいごみ処理施設は、環境教育の基点という位置付けです。清掃センターは発電し売電もしており、余熱をサンマリーンに供給している。新しく出来るごみ処理施設についても、より効率の良い発電・熱利用になる。また、子供達がリサイクル・分別・発電等を見ることにより、一体となった環境教育の基点になることを位置付けているため、環境教育にも力を入れていきたい。

ごみの減量について、生ごみの堆肥化やバイオガス化による発電が注目されているが、長野市の場合、生ごみは可燃ごみとして処理しているため、分別体制から見直さなければいけない。事業所から出る生ごみについては、堆肥化、または、家畜の飼料化も進んでいる。生ごみの減量について、事業系だけでなく家庭系も含むので、まだ減量する余地は十分あると思う。減量=(イコール)リサイクルということで、0(ゼロ)にすることは出来ない。出るものをいかに資源物として活用できるか検討する中で、生ごみの抑制に繋がっていく。また、学校給食で見ると、長野市の場合、牛乳はビンで出している。全国と比較しても、ビンで出している率はもの凄く高い。再利用することで、抑制できる。事業者も含め全員で考えていくことで、減量の余地はまだあると考える。

(委員) 資料3の7頁、2.1.1 分別の徹底に向けたわかりやすい啓発活動の推進について、目標に有線放送12回(再放送含む)とあるが、携帯電話が普及し有線放送の利用者が減っていく一方であるため、この分を広報ながのへ掲載する回数を増やした方が良いのではないかと。

(事務局) 有線放送の加入率は分からないが、高いとは思わない。減っている可能性がある。有線放送だけでなく、色々な方法で啓発を行っていききたい。

広報ながのも月1回の発行ペースになり、情報量も多く、記載されている内容がしっかり伝えられているか難しい面もある。どんな啓発方法が望ましいか検討させていただく。聞いてもらえなければ意味が無く、また、やることに意義があるのではなく、やったことが結果に結びつくことが大事であるため、色々な方法を考えていきたい。

(委員) 中山間地で開催された出前講座で市の職員が一生懸命説明してくれたが、地域に応じた説明をしてほしい。また、市街地と中山間地ではごみの中身が違うため、同じ内容では戸惑ってしまうという意見をいただいた。中山間地や高齢者に配慮した内容に変えて、説明していただきたい。

環境教育の推進が事業系のごみ発生抑制の推進に変わった。事業者はエコ・サークル等に一生懸命取り組み、市は重点項目の中でも啓発活動が主になると思う。事業系のごみが微増しているため、重点項目として設定したのか。また、事業者はコスト計算をしており、ごみの減量に取り組むことによって経費が削減すれば、必ず行なうと思う。

レジ袋について、私も日々取り組みをやっている。地域や店舗によって本当に違う。委員皆さんにも、レジ袋の削減についてロコミで良いので広げていただきたい。生ごみについても、同様に協力していただきたい。

(事務局) 地域によって様々な問題があるため、今回の実施計画の中で住民説明会については、中山間地・都市部等の地域性を考慮した内容に見直しを行なうと明記させていただいた。

事業系のごみについて、コスト面を考えながら事業活動を行っているが、経費削減という観点だけであれば、清掃センターで焼却処理することが一番安上がりである。分別する手間や資源化する経費は、焼却処理より非常に経費が掛かってしまうのが現状です。コスト面は非常に大事だと認識しているが、法に則り事業者の責務として、ごみの減量や資源化を進めていく必要があることを、事業者の皆様理解いただくよう啓発を進めていく必要がある。

レジ袋について、有料化した店舗と無料の店舗では倍以上違う。結果を公表することによって意識改革に繋がっていくと思うので、引き続き啓発に努めたい。

(委員) 資料3の7頁、2.1.3と2.1.4について、住民自治協議会が設立され4年ほど経過したが、地区の状況が一番分かるのは住自協です。私の地区では、環境部の役員が地域のごみ問題やリサイクル関係等、色々な話し合いの中で進めている。ついては、2.1.3を重点項目にして良いと思う。住自協でもごみ問題は重要な課題です。地域を上げての住自協であるため、連携を取ることは重要です。住民説明会や出前講座、マイバッグ持参についても関連している事業であるため、地域に下ろして発進していくことをお願いします。

(事務局) 重点項目を16項目に限定している訳ではない。また、重点項目だけでなく、48項目全て実施するため、全て大事です。

住民説明会を重点項目としたため、2.1.3は重点項目に位置付けしていませんが、重点項目に加えていただくことも重要であると考えます。委員皆さんの意見を聞き、16項目ではなく17項目にすることは可能です。

(委員) レジ袋について、各小売店の取り組みで削減に繋がることは十分承知ですが、ある小売店ではレジ袋を2円で購入してもらおう。マイバッグを持参すると2円差し上げる小売店もある。小売店によって色々なサービスがあるが、一元化にならないのか。

(事務局) レジ袋有料化は、各小売店の自主的な活動です。ポイント制で還元する形等、色々な形の中で有料化が進んできた経過がある。現段階で、サービスを統一することは出来ません。色々な事例がある中で小売店は検討していくため、意見として承らせていただく。

(会長) 予定時間が過ぎていきますので、ご意見等がある場合は、事務局へ連絡していただくことで良いか。

(事務局) 3月20日(木)までにご意見等をいただき、それを事務局で反映できるかできないか判断したい。については、事務局に一任させていただきたい。

また、住自協との連携について、市としても大事な視点であると思っているため、2.1.3を重点項目に付け加えることだけ決定してもらえれば助かる。

(会 長) 住自協は必須事務が多く、実施できないと思う。重点項目するのであれば、必須事項から選択項目に移し、何か項目を落とさないと無理である。

(委 員) 自分達の地区は自分達で築き、地域を一番分かっている住自協です。地域を知っている方が地域のやり方で行なうことを基本とするため、重点項目としてほしい。

## 6 その他

○次回（平成26年度第1回）審議会について、平成26年5月中に開催したい。（事務局）

○本日の議事録は、事務局でまとめたものを次回の審議会でお配りし、承認後に公開したい。簡単な日時や概要等をまとめた簡易的な開催結果と本日の資料は、別途ホームページで公開させていただく。（事務局）

## 7 閉 会

（16時30分閉会）